

令和元年度沖縄県振興審議会 第3回文化観光スポーツ部会議事録

1 日 時 令和元年9月12日(木) 15:00~17:05

2 場 所 八汐荘 中会議室(4F)

出席者

【部会委員】

部会長	下地 芳郎	沖縄観光コンベンションビューロー会長
副部会長	平田 大一	沖縄文化芸術振興アドバイザー
	小島 博子	一般社団法人日本旅行業協会沖縄支部副支部長
	前田 裕子	公益財団法人名護市観光協会理事長
	當山 智士	一般社団法人沖縄県ホテル協会会長
	佐野 景子	独立行政法人国際協力機構沖縄センター所長
	ミゲル・ダールズ	沖縄空手案内センタースタッフ・月刊「沖縄空手通信」編集者
	大 城 學	岐阜女子大学沖縄サテライト校教授
	佐久本嗣男	公益財団法人沖縄体育協会理事長
	渡嘉敷通之	公益財団法人沖縄体育協会専務理事

(欠席)

東 良 和	沖縄ツーリスト株式会社代表取締役会長
與那嶺善道	公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団理事長
原田 宗彦	一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構会長
石原 端子	沖縄大学人文学部福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻准教授
富田めぐみ	合同会社琉球芸能大使館代表

【事務局等】

新垣文化観光スポーツ部長、雉鼻観光振興課長
仲里班長(観光政策課)

【事務局 仲里班長(観光政策課)】

ハイサイ、グスーヨー チュー ウガナビラ。定刻になりましたので、これから沖縄県振興審議会第3回文化観光スポーツ部会を進めてまいりたいと存じます。進行役を務めさせていただきます県文化観光スポーツ部観光政策課の仲里と申します。よろしくお願ひいた

します。

審議に入る前に御報告でございますけれども、本日観光の分野の東委員、交流の分野の與那嶺委員、スポーツ分野の原田委員、石原委員、文化分野の富田委員につきましては、本日都合により御欠席となっておりますので御報告いたします。

まず初めに、配付資料の御確認をお願いいたします。お手元の次第にあります配付資料一覧をご覧ください。

次第、配席図、出席者名簿、資料1～7は第1回文化観光スポーツ部会で配付した資料となっております、本日は配付はございません。

資料8：沖縄21世紀ビジョン基本計画等検証シートについて(9/12更新)。

資料9：沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)等総点検報告書(素案)

文化観光スポーツ部会 第3章 所掌箇所一覧(9/12更新)。

資料10：沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)等総点検報告書(素案)

文化観光スポーツ部会 第3章 所掌本文(抜粋)(9/12更新)。

資料11：令和元年度沖縄県振興審議会 文化観光スポーツ部会 議事要旨(9/12更新)。

審議結果(案)(9/12更新)。

資料の不足等はありませんでしょうか。

本日第3回は、第2回の部会に引き続きまして、総点検報告書(素案)の第3章を中心に御審議をいただくことになっておりますけれども、第3章につきましては、平成24年度から始まる現計画、いわゆる沖縄21世紀ビジョン基本計画の中で実施してきました文化観光スポーツ部のそれぞれの基本施策の推進による成果とその対策が今回の審議テーマとなっております。

内容といたしましては、本日は観光がテーマとなっております、大きく分けて3つのテーマとなっております。まず1つ目に市場特性に対応した誘客活動の展開、2つ目に観光客の受入体制の整備、3つ目に世界に通用する観光人材の育成という形で、この3つをテーマとさせていただいておりますので、よろしく願いいたします。

それでは審議に移りたいと思っておりますけれども、沖縄県振興審議会運営要領第3条第3項の規定によりまして、部会長が会務を総理することになっておりますので、ここからの審議につきましては下地部会長に議事の進行をお願いしたいと存じます。下地部会長、よろしく願いいたします。

【下地部会長】

皆さん、こんにちは。きのう会議をやったような感じですが、先週に引き続きの審議会です。皆さんの御協力をお願いいたします。

先ほどお話がありましたとおり、きょうは観光がテーマになっております。観光の分野ではありますけども、文化、交流の視点からも重要な点だと思っておりますので、ぜひ積極的な御発言をお願いしたいと思います。

式次第に沿って進めたいと思っておりますけども、1の沖縄県振興審議会①21世紀ビジョン基本計画の総点検について進めてまいります。

まず、事務局から進め方について説明をお願いいたします。

1. 沖縄県振興審議会 第3回文化観光スポーツ部会

①沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)総点検報告書(素案)

第3章 基本施策の推進による成果と課題及びその対策(文化観光スポーツ部会関連)

(1)市場特性に応じた誘客活動の展開

(2)観光客の受入体制の整備

(3)世界に通用する観光人材

【事務局 仲里班長(観光政策課)】

座ったままで恐縮ですけれども、進めさせていただきます。

お手元の資料9をご覧ください。A4横置きになっている資料でございます。文化観光スポーツ部会の第3章の所掌箇所一覧になっておりますが、この中で色がついている行が、今回新たに追加をしております検証シートとなっております。

1ページ目からご覧いただきますと、まず番号1番の部分、沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にす島を目指してということで、こちらが右端の資料8のページ、検証シートの6ページから7ページという形で資料のページ番号が振られておりますので、御確認お願いをいたします。こちらはエコツーリズムに関することです。

めくっていただきまして、2ページの9番。こちらは25ページから26ページとなっておりますけれども、今回新しく追加した検証表で、こちらは航空路線のネットワークの部分に関する内容でございます。

めくって3ページから4ページ、11番から16番まで、こちらが観光に関する主なテーマになりますけれども、アからカまでの6つの施策展開のシートがそれぞれ今回作成をして追加をされております。

それから、5ページです。19、20、21、MICEに関してましては、次回の第4回でま

とめて御説明をして御審議をいただきたいと思っておりますので、M I C Eは次回になりますけれども、今回新しく追加をさせていただいております。

それから、20番、21番、こちらは離島のリゾート産業の振興、それから離島の人材という形になっております。

めくっていただきまして6ページの25番、こちらは交流になりますけれども、こちらもM I C Eが一部関連しております、M I C Eに関連する記述が新しく追加されております。

最後に7ページの30番、こちらは産業の振興をになう人材の育成ということで、人材関係になっておりますので御報告をいたします。

それでは今回の検証シートと該当する部分に関しまして、事務局からの御説明とさせていただきますと思います。

観光振興課の雉鼻課長からよろしくお願ひいたします。

【事務局 雉鼻観光振興課長】

観光振興課の雉鼻でございます。よろしくお願ひいたします。

まずお手元の資料10、総点検報告書(素案)文化観光スポーツ部会 第3章 所掌本文(抜粋)をご覧ください。

表紙をめくっていただきまして、目次、2ページ目以降です。青の網かけ箇所が観光振興課関係箇所となっております。本日はこの中から、第3章3(2)世界水準の観光リゾート地の形成について抜粋して説明をさせていただきます。

資料の左下、右下が資料10におけるページ番号、資料の真ん中下が総点検報告書(素案)本体のページ番号になっております。ページの読み上げは、真ん中下の素案本体のページを読み上げさせていただきます。

それでは、447ページをご覧ください。イ 市場特性に対応した誘客活動の展開の成果等について御説明いたします。

1行目、人口減少社会を迎えた日本の社会構造に適切に対応するとともに、成長著しいアジア諸国を初めとした海外からの観光客を誘客するため、沖縄観光ブランド Be.Okinawaの定着と戦略的なプロモーション活動を推進してまいりました。

9行目、国内誘客については、ターゲットを明確にしたプロモーションの実施、航空会社と連携した需要喚起を目的とするイベントの開催、現地訪問視察による観光商品の造成支援などを行ってきました。

また、これまで海外で活用してきた沖縄観光ブランドであるBe. Okinawaを国内誘致でも活用し、イメージ動画の発信など、沖縄観光のブランド戦略を推進してきました。

これらの取り組みの成果として、国内入域観光客数は平成24年度から6年度連続で増加し、平成29年度で688万7,000人と、目標値達成に向けて堅調に推移をしております。

28行目、修学旅行については、東京、大阪での商談会や地方都市での説明会の開催を行ってまいりました。また、新たな市場として海外からの教育旅行受け入れを目指して、現地セールス活動や学校関係者の現地訪問視察ツアーなどを行ってまいりました。

これらの取り組みの成果として、国内の小中高生徒数が減少傾向にある中、平成23年度の基準値を下回ってはいるものの、一定規模の実績を維持できていると考えております。

36行目です。海外誘客の空路に関してですが、沖縄ブランドBe. Okinawaのもと市場特性に応じたプロモーションやチャーター便、新規就航便の支援を行ってまいりました。これらの取り組みの成果として、重点市場である台湾、韓国、中国、香港からの既存路線の増便や、戦略開拓市場であるタイ、シンガポールからの新規就航につながっております。

また、欧米等からの誘客を強化するため、沖縄の地理的な優位性を生かし、沖縄を拠点に日本やアジアでの周遊型旅行を提案する国際旅客ハブ構想を発表し、同構想に基づき、航空会社と連携したプロモーションを実施しました。

続きまして、448ページ10行目になります。海路のクルーズ船誘致につきましては、船社訪問や展示会出展などを行うとともに、満足度向上を図るため、シャトルバス支援や受入団体への支援を実施してまいりました。

これらの取り組みにより、外国人観光客数のうち空路での来訪者数は平成29年度で170万人となり、平成23年度比で9.3倍、海路での来訪者数についても平成29年度99万3,000人で、平成23年度比で8.3倍と目標値の達成に向けて着実に前進しております。

20行目、外国人観光客の満足度向上を図るための取り組みとして、多言語で観光案内を行う多言語コンタクトセンターの運営や、飲食店や宿泊施設などのメニュー、ホームページ等の翻訳に係る費用の支援、緊急医療体制整備に係る医療通訳育成研修など、受入体制構築に係る取り組みを実施してきました。

また、平成30年4月には、外国人観光客が安心して沖縄観光を楽しめる環境を整備するため、インバウンド緊急医療対応多言語コールセンターを開設しております。

これらの取り組みなどにより、沖縄旅行全体に対する外国人観光客の満足度は平成29年度で84.8%となり、現時点で目標値を上回っています。

続きまして、449ページ19行目、誘客活動の展開に関する課題と対策についてであります。国内に関しては、人口減少社会に突入し、量的拡大は厳しさを増すものと想定されます。沖縄観光のリピーター率は85%と高く、一方で沖縄観光未経験の方も多くいることから、新規需要開拓に向けたプロモーション活動を展開するとともに、Be. Okinawaを浸透させることにより、沖縄観光のブランド化を図る必要があります。

海外誘客については、アジアからの観光客が増加傾向にありますが、欧米地域の観光客は全体の2.5%にとどまっており、そうした地域での認知度は依然として低い状況です。市場ごとに認知度や直行便の有無などによる優先順位をつけて、効果的で戦略的なブランディング活動及びプロモーション活動を展開する必要があります。

また、国際旅客ハブ構想や東洋のカリブ構想を柱として、空と海の両方から誘客を拡大する取り組みを推進する必要があると考えております。

また、国内外の富裕層の誘客に当たっては、富裕層市場における沖縄の認知度拡大とあわせて、観光関連事業者と連携し、質の高いサービス提供体制を構築し、沖縄観光の高付加価値化につなげる取り組みを推進する必要があります。

続きまして、検証シートに移らせていただきます。資料8の30ページをご覧くださいければと思います。

成果指標について進展遅れとなっているリピーターの満足度ですが、背景と要因を31ページに記載しております。「大変満足」と「満足」を合わせた満足度は、おおむね90%前後で推移しているところであります。一方、宿泊施設、土産品及び食事については、「大変満足」の割合が50%を切る状態が続いており、このことが全体の「大変満足」の割合が伸び悩んでいる原因と考えられます。

国内客の「大変満足」の割合を増やすためには、満足度の割合が低い項目の底上げとともに、沖縄らしい魅力のあるコンテンツの充実が必要であると考えております。

続きまして、右下32ページになります。修学旅行でございますけれども、達成状況は達成見込みとなっておりますが、基準値からの微減の状況であり、国内の少子化による修学旅行需要自体の減少が要因と考えております。

こうした中で、修学旅行フェアや説明会、事前学習や事後学習の支援などを実施することで、一定規模需要を確保していると考えております。また、新規市場として、主に東アジアからの受け入れを目指し、プロモーションや現地訪問視察ツアーなどを行うことで、修学旅行者数の増加に努めております。

以上が、市場特性に対応した誘客活動の展開に関する説明となります。

続きまして、素案3-(2)-エ 観光客の受入体制の整備について説明させていただきます。
資料10の452ページをご覧ください。

前半部分につきましては、空港、港湾のハード整備に関する箇所になりますので、割愛させていただきます。

453ページ2行目からになります。二次交通機能については、観光客のレンタカー利用増に伴う那覇空港周辺の混雑について、那覇空港からレンタカー営業所までの路線バス運行実証調査を行い、民間の自走化につなげたことにより混雑緩和が図られております。

9行目です。外国人観光客の受入体制については、ホテルやコンビニ、ショッピング施設等、海外カード対応ATM及び外貨両替機の導入支援を行ったほか、観光事業者などに対してWi-Fi機器導入の支援を行ってまいりました。

27行目です。ホスピタリティの向上については、多様化する観光需要に対応するため、新たな観光資源を活用した観光メニュー造成のためのアドバイザー派遣、セミナー開催などを行い、地域における観光メニューの充実を図りました。

また、安全・安心・快適な観光地の形成に向けた官民一体の取り組みとして、沖縄県観光危機管理基本計画、沖縄県観光危機管理実行計画を策定するとともに、セミナー、ワークショップなどの開催、地域・事業者などの取り組み支援を行っております。

さらに、観光客を受け入れる県民一人ひとりのホスピタリティ意識を高揚させるため、県民が異文化等への理解を深め、外国人観光客をうとういむち(おもてなしの心)でお迎えするプロジェクト、ウェルカムんちゅになろうの取り組みを行い、めんそーれ沖縄県民運動推進協議会では、まちの景観向上に向けたフラワーアイランドの推進やクリーンアップキャンペーンを実施しております。

続きまして、検証シート、資料8の36ページになります。

成果指標のうちクルーズ船寄港回数について、この章では受入体制の整備として、土木所管のハード面からの分析となっておりますので、こちらでは割愛をさせていただきます。

39ページをご覧ください。(8)外国人観光客の満足度のうち両替利便性についてです。

平成24年度から26年度において、外貨両替機の設置に対して33件の助成をしたほか、観光案内パンフレットやBe. Okinawa Free Wi-Fi接続ページなどで、両替機の設置場所周知を図りました。

これらの取り組みにより、満足度は平成23年度の52.6%から、平成29年度は1.5%向上し

ており、目標値である70%を達成する見込みです。

以上で検証シートの説明は終わらせていただきます。

続いて資料が移ります。資料10、素案の454ページになります。

資料10のページ数で申し上げますと51になりますが、オ 世界に通用する観光人材の育成について御説明申し上げます。

18行目、国内外の観光客が満足する質の高いサービスを提供できる人材を育成・確保し、国際観光地としての沖縄の評価を高めるための取り組みを行ってまいりました。

21行目になります。観光人材の育成については、沖縄観光コンベンションビューローが設置している観光人材育成センターにおいて、接遇、歴史・文化講座などの基礎セミナーを出前講座形式で実施しております。

また、観光関連企業が実施するスキルアップや語学などの研修に対し講師派遣を行ったほか、語学人材確保への支援、経営者を対象としたセミナーなどを実施しております。

36行目です。このほか、次世代を担う児童生徒に対し、沖縄における観光産業の重要性について理解を深め、魅力ある職業の一つとして認識を促していく必要があることから、副読本として観光学習教材を作成し、県内小学校4年生に配布をいたしました。また、当該教材を活用した出前講座についても、沖縄観光コンベンションビューロー内の観光人材育成センターにおいて実施しております。

続きまして、資料8検証シートの40ページをご覧ください。

成果指標の1つ目、観光人材育成研修受講者数については、平成30年度は1,585名と、平成24年度の1,742名から減少し、進展遅れとなっております。

この数値は語学研修、人材研修のみをカウントしておりまして、人材育成としては、これのほかに中核人材を対象とした集合型研修の実施もしております。これらを合わせますと、延べ受講者数は2,262名となり目標値の数値を上回っているところです。

平成30年度に語学研修、人材研修の受講者数が減少した要因としては、研修自走化に向けて助成率を8割から7割に引き下げたことや、観光客の増加による人手不足などがあるのではないかと考えられます。

続いて、(2)外国人観光客の外国語対応能力に関する満足度ですが、平成23年度で40.2%、平成29年度で60.3%となっており、目標値である60%を達成しております。

背景や要因として、観光人材育成・確保促進事業や多言語コールセンターの運営、飲食店などのメニュー、宿泊施設ホームページの翻訳支援などの成果として、満足度の向上に

つながっていると考えております。

総点検報告書(素案)、検証シートについて、私からの説明は以上となります。

【事務局 仲里班長(観光政策課)】

事務局からの説明は以上になります。御審議のほどよろしくお願いいたします。

【下地部会長】

説明ありがとうございました。

今回は観光の分野ということで、ボリューム的には非常に多くなっておりますけども、今事務局から資料10の部分と資料8での結果報告という形でした。資料10の本文の表現の部分と資料8の評価、今報告があった部分等について、それぞれの委員から御発言をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

本日は東委員が欠席ですけど、東委員のコメントについては後ほど報告があるのでしょうか。

【事務局 雉鼻観光振興課長】

はい。後ほど。

【下地部会長】

平田さんから先に聞きたいという声が上がってますけど。

【事務局 仲里班長(観光政策課)】

それでは、次第的には後でということでありましたけれども、審議結果という横置きの資料がお手元に配られているかと存じます。

こちらに関しましては、各審議会の専門委員からの御意見をまとめて、修文あるいは自由意見という形での意見を取りまとめているものでございまして、部会が進むにつれまして、それぞれの会で御意見をいただいたものに関してどんどん増えていくという形になります。

あと、ほかの部会の委員の皆様からの御意見が出たら、その都度追加をしていく形になっておりまして、こちらは現時点での取りまとめになっております。

その中で、東委員からの御意見につきましては、左側の番号の4番から9番という形になっておりますので、意見に対する内容について事務局の御説明をさせていただきたいと思っております。

【事務局 雉鼻観光振興課長】

引き続きで恐縮ですが、審議結果の内容について御説明させていただきます。今、御案

内をさせていただいた審議結果の資料をご覧ください。

番号の4から9までは東委員に御意見をいただいたものになっております。このうち5から8について説明をさせていただきます。

3ページ目、番号5についてですが、該当する総点検報告書(素案)は157ページの33行目になります。東委員からは、空港周辺の混雑解消、拠点の分散化に関する記述が必要という旨の御意見をいただきました。

これを踏まえた審議結果(案)ですが、該当箇所に「レンタカー貸し渡し拠点の中・北部への分散化」という文言を追加して修正しております。

続きまして、番号6についてです。総点検報告書(素案)は149ページ、34行目となります。航空燃料税、着陸料、航行援助施設利用料の軽減措置について、東委員からは、国内線と国際線で内容が異なるため、もっと明確に記載したほうがよいという御意見をいただきました。

それを踏まえ、一番右の審議結果(案)でございますが、旅客に対する沖縄特例の軽減措置は国内線のみであるため、該当箇所に「国内路線に対する」の文言を追加して修正しております。

続きまして、4ページ番号7になります。総点検報告書(素案)は152ページの16行目となります。平成24年以降の全国的な観光客増について、ゴールデンルートによる訪日旅行者数を要因として入れたほうがよいとの御意見をいただきました。

審議結果(案)としまして、4ページ番号7の一番右の欄に記載のとおり変更をさせていただきます。

続きまして、4ページ、番号8、総点検報告書(素案)は156ページの24行目になります。観光産業を担う人材の育成についてです。東委員からは、観光学習教材とその活用に関して記載したほうがよいと御意見をいただいております。

審議結果についてですが、総点検報告書(素案)455ページ、36行目にその取り組みを記載しているため、156ページの記載はそのままとしたいと考えているところであります。

以上でいただいた意見に対する審議結果(案)の説明とさせていただきます。

【下地部会長】

ありがとうございました。先に東委員の発言を紹介させていただきましたけども、先ほど事務局から説明のあった資料10の第3章の中から、それぞれの委員の皆さんに御意見をいただければと思います。

ただ、様式上に記載した意見ではありませんので、内容にかかわらず御意見があれば出していただいて、それを本文等との関係で事務局において整理をしていくという方式になると思いますので、新たな、これに記載されていない部分でこういうことが必要ではないかということがあるかもしれませんので、各委員の皆様から意見をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【平田副部長】

前はこちらから回っていったものですから指示を待とうかと思ったのですが、2つですけれども、逆に個別な感じにはならず、観光に関してはざくっとした形になりますが、1つは平成23、24年に文化観光スポーツ部がまさに立ち上げのときに、新しい観光のシフトチェンジがあったと思います。それは、3・11を受けて、国内旅行客からインバウンドを強化するという方向にかなりなった記憶が、自分自身もそこにかかわった1人としてありまして、そのときに大きく転換する中で、10年ぐらいで大体3つのパターンで進んでいくだろうという予想を立てた記憶があります。

1つはムーブメント、次にブランディング、最後にスタイルだと。つまり最初の3年間か4年間はムーブメントに力を入れる。沖縄観光はすごいぞということに力を入れるということで、プロモーションになるべく予算をかけていくというか、そういう時期がありました。

そういったことを踏まえて、議会からもかなりばらまきではないかという追及を受けた記憶もありますけれども、一方で1,000万人という到底かなわない夢に向かって、何とか頑張って実現をするんだということで、空港の限界値なども計算しながら、どうしたら1,000万人、あるいは1兆円になるのかを計算した記憶もありますが、その2つ目がブランディングだったと思います。

今中間に来て、いよいよ後半戦に行くにしたがって、最初のムーブメントでプロモーションをかけて、お客さんたちにいっぱい来てくれと。今度はブランディングした沖縄というものをしっかりと提案、提示して、もしかするとお客さんの数は減るかもしれないけれども泊数が伸びているとか、あるいはナイトエンターテイメント等々で満足度が充実しているとか、あるいはストレスフリーな沖縄観光を実現することで、いろんなところでの落ち度はあるかもしれないけれども、ストレスがないだけでも変わるのではないかということとでいろいろと議論しました。先ほど東さんからあったみたいなレンタカーを待つ時間が長すぎて少しストレスがたまるとか、あるいは入国審査の時間がかかりすぎるこのスト

レスフリーをどう図るかという議論をした記憶があります。

こういったところが次の振計の中で、課題としてどのように文言として出てくるのかを気にしながら読みましたが、なかなか読み取れなかったところがあったのが1つです。

最後はスタイルということで、それで800万人に減ったとしても、長期滞在する人たちが沖縄旅行だとか、例えば竹富島みたいに沖縄全体が入島料みたいな考え方を議論することも含めて、そういったことが沖縄の観光スタイルというところまでこの10年でいけるかなというのを見ていきたいと思って読んでいましたけど、なかなかそこら辺が少し文言では読み切れなかったところがあったので、そこら辺に関して御意見がいただければと思います。

ラストもう1個は何かというと、先週の部会でふと気づいたのですが、2巡目の意見が言えなかったのもそのまま終わったのですが、どうやら県内市町村の機構改革が実際どう動いているのかなというのが気になりました。

というのは、文化観光スポーツ部ができたおかげで、ある意味で言うならば、観光が文化やスポーツという面とすごくコラボしながら進んでいくと思いますが、一方で市町村の中においては、相変わらず文化は文化、要するに教育委員会、それからスポーツも教育委員会という形の中で、機構改革がある意味県と同じではないところがあると思います。

ですから、そもそも論になりますけど、文化観光スポーツ部ができてどうだったのかという県の中での評価や分析みたいなことは、ここではないかもしれないけど、企画などでやっているのかわかりませんが、その検証自体、本来してもいいのではないかと。

もしそれがよければ、市町村ももっともっと機構改革を進めて、文化とスポーツにおいては、県が知事部局でやるみたいに行政部局の中でやっていかないと、例えばスポーツキャンプでサッカーをキャンプ誘致しますと言うけれども、施設の管理は教育委員会がやっていますので、結局はスポーツを誘致すると言っているのは観光関係だけで、呼びたいところとあまり来てもらっては困る2つが相反するところで、これまでの観光の要素に関してある意味ブレーキになったりするところもあったのではないかと思います。

いやいや、それで守られたものもあるという人もきっといると思います。文化についても。消費される文化と言われた時期もありましたから、文化観光戦略を含めて、観光と文化がマッチングした形で、ジョイントした形でスピーディーにやるというのが、文化観光スポーツ部会が誕生した、ある意味大きな背景にあると思いますが、果たして文化観光スポーツ部ができて、実際に観光の分野における効果、それから課題みたいなことが本当に

なかったのかどうなのかということも、これを機にどこかで考える機会があれば、それをもとにして各市町村で、自分たちなりの機構改革が進むのではないかと考えたりもしています。

なので、県と市町村では役割は違うと思いますけども、少なからず機構が違うものから、ねじれがあると進み方に影響が出るのかなと思いましたので、その2点、意見という感じで聞いていただければと思いました。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございます。事務局からコメントありますか。

部が変わった中での検証、多分この資料の中ではそういった体制に関する記載はないと思うのですが。

【平田副部会長】

ほかの部会でやっているのでしょうか。

【下地部会長】

県の中での体制整備は議論にないですか。

【事務局 新垣文化観光スポーツ部長】

施策としてやっているというか、施策自体がどういう現状であり課題であるかというのを今資料でお示ししているところですけども、組織論というのは、施策を展開する上で、ある意味組織自体が目的ではありませんので、それをどううまく動かしていくかという1つのツールとして組織があるという感じですので、これが、今回進めていく中で、また議論ができるかもしれませんが、少なくとも今県庁の中では文化観光スポーツ部会をどうしようかという議論はしていないと捉えていただいていた方がいいと思います。

【平田副部会長】

そうですね。逆にいうと細かい部分の実際の現場の話だと思いますけど、考え方の枠の中で、そういった議論みたいなものが頭のどこかにないと、もともと文化観光スポーツ部があったという感覚ではいるのですが、本来は2011年が大きな変わり目だったのではないかと考えています。なので、そこら辺を少し。

【事務局 新垣文化観光スポーツ部長】

それはおっしゃるとおりだと思います。教育委員会が持っていたスポーツの部分を、教育スポーツと生涯スポーツに分けて、もちろん県民の健康や青少年の健全育成はもとより、それプラス観光との連携によるツーリズムの推進など、あるいはそれを踏まえた上でのス

スポーツ産業の育成をやるというミッションを与えられて我々はできていると思って、文化しかりです。

ですので、いわゆる守る文化というところは、表現が適切かどうかわかりませんが、守る部分については文化財課でしっかりやっていただいて、それではない生かして観光につながるというところは我々に与えられたミッションですので、それが今の施策展開になっていって、今順次施策を展開しているという認識ではあります。

ですので、おっしゃることはごもっともです。組織をつくって走らせて、では実際はどうだったかという検証は、やはり私どもなりにはやる必要はあるかなという、貴重な御意見だったと思います。

【下地部会長】

ありがとうございました。

それでは御意見をお伺いしたいと思いますけども、當山委員、いかがでしょうか。観光分野なので、こっちから進めていきたいと思います。

【當山専門委員】

特別文言に関しては意見はないのですが、資料8の検証シートの39ページ、税制の観光地形成促進地域のところです。

それと、資料10で言ったら54ページ、総点検報告書(素案)の458ページですけれども、これはお願いごとに近くなるやもしれませんが、観光地形成促進地域への特に国税の投資税額控除の部分であります、ここは以前より議論をさせていただいた覚えがあります。

というのは、対象施設の中に、ご覧いただければわかるように、スポーツ・レクリエーションや、教養、休養、集会などの施設がありますけれども、大観光時代を迎えるについて、交流拠点であるホテルが対象になってないという意味でいくと、特に県内資本ホテルは零細・中小が非常に多い中で、資金力のある県外、それと海外の大手が、今どんどん沖縄にホテル建設を始めておりますけれども、ここはやっぱり誰のための観光かという意味でいくと、県内資本のホテルの経営の強化を図る意味でも、確かホテルはまだ入ってないですよ。ホテルを入れていただくと同時に、新設だけではなくて、県内資本のホテルは老朽化がかなり厳しくなってきました。リノベーションを含めてぜひ入れていただいて、投資減税の控除の対象にさせていただくことはとても重要ではないかなと思ってます。

私どもも今ホテルを2つつくっていますが、これがあつたらよかつたかなというところ

はありますけど、でもこれから本当に県内のホテルはリノベーションを迎えていきますので、そういう意味で、ぜひ経営基盤の強化の一つになるように、ここはずっと先送りして国税という大きな壁に当たってきた感じはありますけれども、頑張ってください、ぜひ入れていただければなということですので。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

この点については、事務局いかがでしょうか。

【事務局 新垣文化観光スポーツ部長】

昨年の税制改正において、関係者の皆様との意見交換も踏まえまして、今當山委員がおっしゃる宿泊施設では、リノベーションについても県としては税制改正要望という形で国との調整をさせていただきました。

結果的に、昨年度末の税制改正ではその要望は通らずに、いわゆる期間の延長だけということになっています。

今後の観光の宿泊者の増とか踏まえると、當山委員がおっしゃるように、宿泊施設についてとか、あるいはリノベーションについても、我々としても必要性については感じておりますので、次の振計に向けて税制がどうなるかはこれからの議論になりますが、そういった意見を踏まえて検討を進めていきたいと思っています。

【當山専門委員】

もう1つだけ、特に対象施設で言ったら沖縄に優位性のないものがたくさんありますよね。アイススケート場や図書館などというのは、別にこれはその地域でやるべきではないかというのも含めてありますので、ぜひ優位性のあるなしをチョイスしていただいて、外す、そして新たに加えるという意味で言ったら、ホテルというものも観光拠点の重要なこととてなろうと思っておりますので、ぜひとも今年度はよろしくお願いします。

【下地部会長】

ありがとうございました。今の話は資料8の39ページに、税制等という形で観光地形成促進地域制度、適用数量・金額、目標、実績となっていますけども、多分ここの表現が少し合わないはずですね。適用数量、範囲というので、国税、地方税という税制の適用の範囲と、目標、実績が観光客数、収入で、進展という表現になってしまうと、観光地形成制度の検証という意味では少し具合が悪いのではないかと。

この制度をつくったときの議論に私も入っていましたが、やはり宿泊施設を入れるこ

とに関しては国のハードルが非常に高いと。その後も何度もチャレンジしたはずですがけれども、なかなかここは認めていただけていないと。その結果として、国税、地方税の数字としてそんなに上がっていないと。

変な話ですけども、財務省的に言うと、減税の部分ですからそんなに上がらなくてもいいんですよ。どうしてもそういった税制の部分に関してはハードルが高いところがありますけども、これを打破するには、改めて今の段階で、當山委員が言われた、今後もホテルをどうつくっていくのかと、本当にあと何十件、何万室という議論であれば、また議論も別になってきますし、リノベーションも含めてこのあたりは次の振計の目標のところとの議論だと思いますので、税制の部分は非常に難しい部分ではあると思いますけども、改めて見直しもしながら、取り組む必要があるのではないかなと思います。

それでは、前田委員、お願いいたします。

【前田専門委員】

前田です。よろしくお願いいたします。

今のお話の流れで、たまたま、今朝、沖縄県振興計画の別の委員会にも出てまして、その中で1人の委員の方から出たのが、やはりベーシックに、そもそもこの計画が何のためにあるかというところと言うと、沖縄県民が幸せになるためというか、幸せが向こう10年、または30年後、50年後、我々の子孫たちがどういうふうになんか幸せに暮らしているのかを忘れてはいけないということでしたので、なるほどなと思いました。

その中で、今の當山社長の話でいうと、確かに県内企業がしっかりと自立して、稼いで雇用もしてということが本当にあるといいなと思いましたので、県民が幸せになるというところをお話しさせていただきました。

ホテルの件数についても、やはりホテルはどんどん増えている、でも労働人口は減っていく、それをどうしていくかというのがこれからの課題になっていくと思いますけど、宿泊施設に関しましても、宿泊施設は足りないという話が出ますけれども、果たして本当にそうなのか、別に他者を入れたくないとかそういう意味ではないですよ。ライバルを増やしたくないとか、そういう意味ではなくて、オーバーツーリズムが今少し言われてきたり、そんなネガティブな考えにならないためのゾーニングというのか、そういうのは必要かなと思ったりしているところでもございます。

話を戻しまして、きょうのこの検証シートから質問が2つあります。

まず1つ目に、検証シートの31ページの外国人観光客の満足度調査で、背景と要因の分

析の(3)沖縄旅行に対するリピーターの満足度がありますが、低いのが宿泊施設と土産品及び食事の大変満足度が50%を切っている状態ということで、その際の宿泊施設のジャンルもいろいろ増えていますので、どういう宿泊施設のタイプが、全体的に見ているのかもしれないですけど、施設のジャンルがわかるのかというのが質問です。

もう1つは、語学研修については多言語で研修されていると思うのですが、多分英語だけじゃなく、今では中国語、韓国語を研修されていると思いますが、40ページで進展遅れになっています。

これもまた受け売りですけれども、下手な中国語で接客されるよりも、英語で話しかけられるほうがアジア系の方はほっとすると聞きました。例えば私たちが海外で日本語で話しかけても、何かだまされそうだと感じたりすることがあるので、それよりは英語でスムーズにしゃべったほうがいいという話を聞いたので、なるほどなと思いました。

なぜなら、例えば弊社のホテルの現場でも、もちろん挨拶ぐらいはいいと思いますけれども、やりとりは英語でやるのがいいですし、現場がどんどん慣れていって、逆に英語の語学力が結構上がってきていますので、しゃべれなかったものも接客用語ぐらいはきちんとしゃべれるようになってきているので、その進展遅れというのはどれぐらいを目指して進展遅れと言うのか、受講者数の問題なのか、それともしゃべれている度合いなのかということが質問です。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。事務局。

【事務局 仲里班長(観光政策課)】

まず宿泊施設のタイプごとの満足度がわかるのかという御質問でしたが、こちらの満足度に関しましては、観光統計実態調査という国内客向けのアンケート調査、外国人も外国人観光客実態調査というのがございますけれども、その中でどこに泊まりましたかという質問項目がございまして、国内向けに聞いているのは、宿泊施設はリゾートホテル、シティホテル、ビジネスホテル、それから民宿・ペンション、ドミトリー、ウィークリーマンション、それから実家、知人・親戚宅、その他という分類になっておりまして、当然属性ごとにクロス集計すれば出てくるという形で、今手元にはそのデータはございませんので、次回参考になるようなデータがあれば御説明をさせていただきたいと思っておりますけれども、おむね宿泊施設のタイプはこのような形でっております。

具体的な満足度に関しましては、通常満足度は毎年とっているのですが、詳細満足度調

査というのを3年に1回ごとにやっております、これは平成30年度が直近のデータということで、もうしばらくすると集計の結果が出てまいりますので、もう少し細かい満足度の内訳、属性ごとの、または宿泊施設タイプごとの満足度の参考になるようなデータはお示しできると考えております。本日は手元にないのですが、次回以降情報提供させていただきますと思います。

【事務局 雫鼻観光振興課長】

観光振興課からは語学研修の進展遅れについてですが、これは目標値に対する人数の評価ですので、人数が目標値を下回ると当然遅れているということです。

私のほうから先ほど御説明申し上げましたとおり、企業様のほうでも自主的に研修を進めていただきたいということもありまして、私どもは自走化、自走化とよく言っておりますけれども、自走化を促進するために、助成割合を1割引き下げたということがございました。

それから、これは前田委員に申し上げるのも大変失礼になりますけど、やはり人手自体が非常に難しく、受けさせられないこともあるのかなということがあって、相対的に人数が減ってしまっています。

あと、何語かというお話をいただきましたが、大変申しわけないですが、今手元に言語別の回数は持っておりません。

30年度の研修件数は71件で、語学が26件、人材が45件、昨年度は人材すなわちスキルやマナーなどが多かったと。

今までずっとやってきた中で、延べ総研修回数の中では、740回のうち465回が語学であったというところで、非常に語学が多いという結果にはなっていると思いますが、申しわけありません、言語別というのは持ち合わせておりません、失礼しました。

【前田専門委員】

ありがとうございました。

人材育成に関しては、ホテル協会さんやいろんなところでも、マネジメント能力を上げる研修などが増えておりますし、そういったものはまだまだ必要かなと思ったりしています。人材育成は語学のみならずです。どうもありがとうございました。

【下地部会長】

ありがとうございました。人材育成については、県の事業だけではなくて、最近の内閣府の直轄の事業も出てきているので、なかなか県の事業だけで判断できない。全体として

は結構強化されているところがあると思いますので、このあたりをどう評価するかということも、県の施策だけでいくと少し違いが出てくるかなという感じはします。

【當山専門委員】

世界に通用する観光人材の育成という部分ですけれども、特にホテルのリアルな現場で言ったら、今は世界に通用する観光人材の誘致に変わってきています。

沖縄の方々、日本人に語学の教育をするというよりも、特定技能1号が4月から出てきましたけれども、台湾、韓国、香港、中国を含めて、語学教育を我々がするのではなくて、実はもう現場は優秀な人材を採用していくという時代が変わってきています。

そういう意味でいくと、国の施策の特定技能1号は始まりましたので、幸いにも特定技能1号というのはマルチタスク化がかなり実現しているところです。ぜひ新たな取り組みとして進めて、ひとつ指標としてそういう取り組みもあっていいのではないかと。

ちなみに、うちのかりゆしがもう45名です。でも、うちの場合は高度語学人材でして、特定技能1号になっていないので通訳業務しかできません。新たな課題として、高度語学人材のマルチタスク化もぜひお願いできませんか。

そして、観光にかかわる試験会場が、沖縄はやっと10月に1回開催されます。それは、ホテルのフロント業務、それと料飲業務が中心ですが、実はコックも重要でして、やはり料理人は重要ですね。今までは外国人の料理人を採用しようとしたらとても大きなハードルがありましたけれども、今は料理補助を含めて調理ができるようになっております。

その辺も含めて、新たな取り組みの課題として、ぜひ来年以降検討いただければと思っています。すみません。余談でした。

【下地部会長】

ありがとうございました。

それでは、小島委員にもお願いいたします。

【小島専門委員】

小島でございます。

私は、海外からの修学旅行の誘致について、安定的に伸びてきて少し落ちついているというような文言だったと思いますけど、海外からの修学旅行ですが、まず何を望んでいるかということ、海外の学校は沖縄県内の学校との交流を望んでいます。

観光地に来るというよりは、沖縄の学校との交流を望んで来られるのですが、交流先を探すのがすごく大変なんです。

下地会長にも非常に助けていただいて、琉球大学の学生さんに助けていただいたり、いろいろあったのですが、やはり同じ年ぐらいの小学生だったり、中学ぐらいの子どもたちとの交流をしたいということで希望が来ますが、なかなか海外の修学旅行は中身が詰まってくるのが遅くて、受け入れる学校を探すのがすごく大変で、行事が結構詰まっているので、授業ももちろん詰まっていますし、その中で交流授業を受け入れてくれというのが、2クラス以上になると非常に厳しいものがあるって苦労しているので、今後いろいろな部分でそういうことを受け入れて、交流することによって、沖縄の子どもたちや、おもてなし、文化など、そういった部分を知る機会にもなりますので、ただ学校側の言い分もわかる。ぎりぎりに来られて、授業を潰して交流をやっている暇はないという部分もあるので、そういう部分を何とか調整できないものかなと。

今ビューローの御担当もさんも非常に苦労されていると思うので、誘致にすることに当たってはそういったところの解決も必要なのかなと。

あと、海外の学校側も、修学旅行で人数が多い場合は早めに早めに日程を決めて交流先を探すとか、そういった部分の周知も必要なかと常々思っているんで、誘致することに当たっての計画性も必要なのかなと思います。

【下地部会長】

ありがとうございます。

海外の修学旅行については、何か事務局からコメントできますでしょうか。

【事務局 雉鼻観光振興課長】

観光振興課でございます。

今御指摘のとおりでございます。我々も進めていく中で、例えば台湾、香港、韓国、中国は北京、上海ですけど、エリアごとにいろいろと対応する課題も変わってまいります。共通して挙げられているのが、学校交流をあっせんする体制が不十分であると、今御指摘いただいたとおりです。

ただ、現実問題、日本側の学校も小島委員のお話のとおりでございます。そここのところをどうアレンジしていくか、今模索しているところではあります。

ただ、これはあくまでも感覚的なものですが、非常に増えてきているような印象がありますので、そここのところは、例えば今委員御指摘のとおり、相手側の学校や相手側の国サイドにも余裕を持って計画していただくということも必要なのかなと。我々が突発で合わせるだけでなく、お互いに歩み寄るところも必要なのかなと感じているところです。

【下地部会長】

ありがとうございました。

海外からの依頼というのは大学にも結構あって、これは小中学校も一緒ですけども、従来のカリキュラムとこれをどう組み合わせるかというところで、なかなか課題がある。

ですから、観光の効果というのは経済効果だけではなくて、異文化理解効果というのがものすごく大きい。そういうことを言っている一方で、学校の現場がなかなかそれに対応できないと。

全国的に見ると沖縄は徐々に増えてきているところではありますが、なかなかこれが計画的になっていないという現実があって、一部の学校の非常に意欲的な先生方に頼っているとありますので、このあたりは組織的に県の教育庁や各市町村の教育委員会等とも、観光の効果としての異文化理解効果をどれだけ学校現場が納得してくれるかという、学校側に対する説明がより重要になるような感じがしています。

ありがとうございました。

それでは、渡嘉敷委員からもコメントをお願いいたします。

【渡嘉敷専門委員】

渡嘉敷ですけども、観光ということでピンとこないというのか、私のほうもこれを専門的に見ているわけでもないの、なかなか意見というのが出せない状況ではありますけど、今委員からのいろいろな意見を聞いた中で、検証シート等に出てくる進展遅れとか、言葉では出ているけども、なぜ進展遅れなのか、どこの部分ができてないのかが見えないという感じを受けました。

そういうことが見えないので、将来の見通や課題がどういうふうに出てくるのかという疑問というか、見えない部分があるような感じがしますので、やはり遅れているのは何で遅れているのか、わかりやすいような表現ができないのか。

それについての対策、あるいは今後どうしていくかという課題解決に向けての取り組み等もそこら辺から見えてくるのかなと思うので、ぜひそこら辺のことを示していただければと思います。

それから、いろいろな形でアンケートをとっています。前回は話をしたと思いますけど、年齢層に分けてのアンケートをとらないと、年配の方々だけで支えられているのかとなった場合に、今後そこら辺の支えられる部分が尻すぼみになるのではないかと。若いそこら辺があれば、将来はまたそこら辺が支えられてプラスに展開するのかなというのも見えて

くると思いますので、そこら辺のことを少し示しながら、振興計画の中に出していただければ、まだわかりやすいと思いますので、ぜひそこら辺の検討もよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

平田委員は後ほど。大城委員からお願いいたします。

【大城専門委員】

資料10の453ページを見ますと、レンタカー対策が随分と混雑などの緩和が図られたというところで、いい方向に向かっていると思うのですが、もう一方で、私が気になるのは白タクです。実は先週も、県内の民放が、夕方のニュース番組で特集ですから10分ぐらいしか組めませんが、白タクのことを話題に上げていて、だんだん白タクを使うことが巧妙になっているということで、これは沖縄県の観光についてはマイナスのイメージを与えてしまうのではないかなというのがあって、そのときにもタクシー協会の方が出ていましたけれども、相手が非常に巧妙なやり方をするので、なかなかうまく白タク対策ができてないということだったのですが、そういうことについての対応はどうなっているのかというのが、確認したいことなのですが。

【下地部会長】

ありがとうございます。

今いろいろ問題になっている白タクですけど。

【事務局 雉鼻観光振興課長】

観光振興課でございます。

白タクについては、基本的には観光で取り締まるということではないです。変な話ですが、例えば国の総合事務局、それから警察という話になってくるのかなと思います。

一時期、クルーズ船でお見えになったお客様に対する白タク、主にこれは中国系の方ですが、それが課題になったときには、クルーズ船のそばに行くまでに1つチェックを設けて、白ナンバーのワゴン車が入っていくのはおかしいというところで、例えば石垣あたりでは実際に止めてというようなことはございました。

昨今言われているのは、アメリカ軍関係の方もスマホで予約して決済してという話になっているのかなと思っております。

これはハイヤー・タクシー協会に聞き取りましたところ、外国人観光客が観光地までの

移動手段として利用する白タクの実態として、配車アプリなどを使ってネット上で料金決済をするというのが主流になっていて、非常に手口が巧妙で把握がしづらいというようなことになっているようです。

ある程度現状は把握しておりますが、冒頭申し上げましたように、実際に取り締まるといふことになる少し部署が変わってまいりますので、今は状況報告というところで止めさせていただきたいと思っております。

【下地部会長】

よろしいでしょうか。

この白タク行為については、警察と沖縄総合事務局あたりで、先ほどお話にあったYナンバーのときには取り締まりもしていますが、正直言ってこれが十分に行われているかという、なかなかやはり現実には、増加する外国人観光客の中では、水面下で動いている部分も大きいのではないかと感じております。

この対策については、また新しい状況を確認していただけるといいのではないかと思います。

それでは、佐久本委員、お願いします。本日は観光に関するということで、空手とMIC Eが次回になるということでもありますけども、御意見をお願いいたします。

【佐久本専門委員】

佐久本です。次回空手ということで、空手の準備だけをしてきたのですが、まず4、5日前に分厚い資料が来て、わっーと思いました。これを読んでいたら、練習時間が相当減るなど。非常に重たいなど。文化観光スポーツ部の方がお出でになって、これを渡されて、これを全部読むのかということが第一印象でした。

この資料を、これと一緒に持ってきていただいたので、この資料に書かれているのが第2回の部会における確認事項についてという議題と、21世紀ビジョン基本計画等の総点検報告書(素案)第3章 沖縄振興の現状と課題についてというのがあって、大体こんな感じだと、ではどこかなと目次を見たら、空手というのが出てこないで、これだけのものでもどこを見ればいいのかなど。これは寝不足をするのではないかと、あけて見たんですが、多分文化とかそういうのが書かれているものだから、その辺の伝統的なもの、この辺かなと見ました。

そこに4行ぐらい書き並べてられていて、次回来られるかどうかわかりませんので、今で言っておきたいと思っておりますけど、そういうことがあって、びっくりしました。この資料

からして。

私が今やっていることが、恐らくこういう形でこれに大きくまとめられているのかなと
思いましたので、私は非常にせっかちですので、次の件につながるかもしれませんが、
私が今やっていることを少しお話ししてみたいと思います。

実は私は空手をしております。8月19日から24日まで、劉衛流の憲里200年記念武芸祭を
県立武道館で、文化観光スポーツ部の協力をいただいて、私たちなりに盛大に開催したつ
もりです。

その中で、こういうふうにして生誕200年祭というプログラムを、予算があまりないので
コンパクトにつくったり、セミナーをするならかつこよくしたほうがいいので、こういう
ふうに表示をつけてとても喜んでおりました。

海外33カ国、320名来ましたので、6日間ここで宿泊しておりまして、その後延べ115名
の皆さんが5日間残って滞在しましたので、私の適当な計算でやったら、9,000万から1億
4,000万円ぐらい落ちているだろうと、微力ではあるけれども協力できたかなと思います。

中身については、沖縄県が最もアピールしている世界の恒久平和もありましたので、8
月20日に万座ビーチの前の恩納海浜公園から世界に、1,100名で平和を発信しました。そう
いうことをして観光バスを12台借りましたので、バス代だけでも87万かかって、大変だな
と思いましたが、それなりに協力もして、観光にも少し寄与できたかなと思っています。

みんなで平和を発信して、21日から23日まで国際セミナーをしました。33カ国から集ま
っていますので、言葉もみんな違う。今いろいろと語学の話も出て頭が錯綜しましたけれ
ども、私の小さな頭でこんな難しいことをホテルではいろんな研修をなさってらっしゃる
のだなど、大変だなと思いましたが、私は簡単な空手の指導をするに当たって約120ぐら
いの言葉を自分で持っています。

腰を落とせとか、もっと落としなさいとか、脇を締めろとか、アンベシタイトンとか、
チン・インとか、ショルダー・リラックスとか、スポーツ用語は命令調ですから、エクス
キューズ・ミーと言わなくてもいいわけです。

だから、何も語学に不自由しないし、わからん人はわからんでもいい、言葉は。ジェス
チャーですれば十分伝わりますので、何不自由なく自分の意思是伝えられたと思ってお
ります。

喜友名君以下17名の、私が毎日空手の指導しているメンバー、選手がいます。来週火曜
日からチリに行きます。来月はロシアです。海外に行って誰1人として言葉に不自由して困

ったという人はいません。それなりにちゃんと場数を踏んで慣れているので、堂々とどこでも振る舞いなさいと、あとジェスチャーがあるんだということでやっていて、指導も和気あいあいと楽しく、わかったかとかジェスチャーしたり、本来であればもっと懇切丁寧に親切な言葉で対応していくべきだろうけれども、そこは沖縄のアイコンタクトというのか、気持ちでお互いしながら、空手という二文字でみんなの心は通じ合っていますので、そういうことをさせてもらいました。

そこで、参加型の大会だったらいいのかなと。観賞するのでもいいのだけれども、南風原高等学校の協力をいただいて、20日は奉納演舞を海外2公演でやって、24日は外国の人に沖縄の文化を見せてやろうと、どうしたらいいのかと南風原高等学校に私はもともと勤務しておりましたので、郷土芸能部の子どもたち56名にお願いしました。

来て、ゲイオンの舞から始まって、非常に外国の人が感動して、まずは外国の人に演舞させて、座ってもらって、それから踊りに入りました。だからみんなが、外国の人と一緒に、沖縄の子どもたちも1,100名の劉衛流の子どもたちもみんなが楽しめる、席に着いてからやりました。22分間やって、挨拶は大変恐縮でしたが、どなたにも挨拶させませんでした。もうすぐゲイオンの舞から、挨拶が40分も50分もすると時間ももたないないので、気持ちは非常にわかっておりますので、そこから入って、カチャーシーも一緒にやってみました。外国の人、沖縄の文化に触れるということで、参加型。セミナーも一緒にしました。最後は喜友名くんたちにもどり籠をさせました。赤いふんどしをさせて。

非常にみんなで和気あいあいとして、チョンダラーですか、外国の人みんな化粧をして、香港の子、シンガポールの子、みんないろいろ交換して、もうどんちゃん騒ぎしてこうしてやって、参加型というか、交流を深めながら、さよならパーティーのときも、司会が始まったらどっちもやめない、9時過ぎても。

各国の出し物がみんな出てきて、空手を通した伝統文化の継承、国際交流、異文化の相互理解、お互い国は違っても、イデオロギーがいろいろ違っても、一緒に心の底からお互いが交流し合える、空手という二文字で、本当に沖縄の文化は素晴らしいと思いますけど、その中から一緒に練習をして一緒に目標を持って、オリンピックを含めて、こんなに素晴らしい沖縄の文化、空手というのは一つの文化で、これだけのお互いのつながりがとれるのかなと思ったときに、沖縄に生まれてよかったなと思いました。

いろいろとまとめられた資料に基づいて進めていくと思います。そんなに的外れなことはしてないつもりです。

また11月には第2回目のセミナーを、冬の陣ということで、夏の陣もあれば冬の陣もあるのかなと言って勝手に書いてやったら、またたくさんの方の応募があって、また来たい。この間も東京でプレミアリーグがありましたが、喜友名君たちが出たり、沖縄に来ている世界の男子個人型の2位、それからサンドラーさんというスペインのオリンピック1位で折り返している選手、香港の選手、7位の選手、4位の選手、25名ぐらいオリンピック候補の選手が来て、ここで稽古をしてそのまま東京に向かいました。

また東京で会って、おうとやりましたけれども、そういうことで、経済効果も含めて、こっちに出てくる強くしなやかな自立型の経済の構築のために、今やっていることをそのままやっていけばいいのかなと。

あとは、ホテルなどいくつか回って、ウィークリーマンションも回りました。安いホテルがあるし、私たちは少し高いほうがいいというわがままな外国の人が結構多かったので、Aランク、Bランク、Cランク、ホテルも値段で6,000円クラス、7,000円クラス、8,000円クラスとやりましたけど、なんとか無事終わることができました。

次回また空手の話もあるようですので、この辺で終わりたいと思います。

【下地部会長】

ありがとうございます。

次回もぜひさらにパワーアップしてお願いをしたいと思います。

【佐久本専門委員】

頑張っていくようにします。

【下地部会長】

ありがとうございます。もうしばらく佐久本先生、これで練習してもらっても大丈夫です。なので、お願いします。

それでは、ミゲールさん、言いにくいかもしれませんが、改めてお願いいたします。

【ダルーズ専門委員】

素晴らしいお話、ありがとうございます。

3点だけ、意見なのか質問なのかわからないので、まずテーマの1の市場特性に対応した誘客活動の展開ですが、さっき読み上げてもらったものの中で、市場特性に関するマーケティング調査のことが、言葉が出てこなかったのですが、なぜそう聞くかということ、外国人観光客ということ、私だったら白人でも黄色人でもみんな入っているのだけど、沖縄は完全にアジア人しか頭のないような気がして、なので、さっきどこかで欧米の観光が低い

とどなたかが言ったと思うのですが、外国人観光客の市場ニーズに対してのマーケティングはどこかに入っているのか、されているのか、されていれば教えてください。

欧米の方が何を求めて、呼んでいくかという、これは非常に重要だと思うので、これが質問です。

2番目は、453ページ、検証シートは40ページだと思いますけど、見ても見なくても、プロの通訳の人材育成の話があったので、もちろんプロの通訳とか案内士は非常に重要ですが、最近琉球新報がまたコラムが始まって、オーバーツーリズムのものがあります。

やはり観光立県、また文化ということは、企業とかプロだけではなくて、県民をどうかかわらせることが重要じゃないかなと。

さっき700の講習で語学が400だったとありましたけど、県民向けの講習とか、県民だったらもっと文化を理解してそれを観光客に伝える。プロに任せるのではなくて、一般県民をどうかかわらせるかと。

特に空手の道場で外国人に紹介する道場の先生たちは、みんな60、70、80歳。範士クラス。その中で英語を話す人はほとんどいないです。それでも全く問題ないというのは、必ず道場には英語ができる門下生がいるか、お母さんがいるか、誰かがいてサポートしていくと。

さっき先生が言った空手は言語が必要ないと、けどたまにはやはり言語は必要ということね。何でも下がり、上がりではね。

そういう支えられる一般県民の環境をどうつくっていくかということが、どこかに入っていればいいのかなど。もし入っていれば、すみません。

3つ目は、さっき小島さんから修学旅行の件があって、海外の修学旅行に関して、学校の交流も重要ですが、せっかく沖縄にはすばらしい文化があって、その文化をコアにした修学旅行を目指してもいいのではないかなと。

例としては、空手会館ができるまであったかもしれませんが、会館ができてから、これは内閣府、外務省の予算だと思いますけど、修学旅行のビジネスをやっている県外の企業がマレーシアの空手連盟とタイアップして、マレーシアの子どもを沖縄に連れてきて、当然修学旅行のようなもの空手がメインです。なので空手会館で研修して、そして浦添高校に行き研修させて、またはアメリカの団体は同じく空手をするために大学生を連れて行って、沖国大でもやった。学校でもやった。

そういう一つの沖縄が誇るものを中心としたプログラムをこれから展開してもいいので

はないかと思いました。以上です。この3点です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

事務局から。

【事務局 雉鼻観光振興課長】

観光振興課です。ありがとうございました。

まず最初のマーケティングのお話です。私どもの中でブランド構築事業というのをやっております、その中で海外のお客様に対してもアンケートをさせていただいております、アジアにしか目が向いてないのではないかという御指摘もあったと思いますけど、私どもは国別、エリア別に重点市場、戦略開拓市場、新規開拓市場、潜在市場と分けているのですが、まず近くの重点市場の台湾、香港、韓国、中国から始めまして、今やっとタイ、バンコクとの直行便が就きました。シンガポールとの直行便が就きましたというようところで、東南アジアのほうに進んでいっているところであります。

そして、新規開拓市場というところで、ヨーロッパ、北米のアメリカ、カナダ、それからオーストラリア、ロシアあたりを進めていっているところであります。

特にヨーロッパからのお客様は、もちろん空手のお客様も、先ほど委員からお話があったようにたくさんお見えになっているのも承知しておりますけれども、非常に滞在日数が長いという特徴がありますので、私どものほうも、例えばドイツやイギリスなど、現地の会社と契約をさせていただいて、例えば航空会社に対する売り込みや、それからプロモーションなども少しずつですがやらせていただいているところではございます。というところがまず1つです。

それから2つ目、県民向けというお話もあったと思いますが、さすがに文化の研修というところまではいってないのですが、私どもで今ウェルカムんちゅ運動というのをやらせていただいております、県民の方が、言葉がわからなくてもインバウンドのお客さんが困っていたら声をかけましょうということで、もともと親切な優しい方の多い地域ですから、そういう事例を集めたり、それを皆さんに御紹介したり、それから8月の観光月間に合わせましてそういう関連イベント、それからクリーンアップ大作戦と申しまして、ビーチのゴミ拾いなど、最後8月30日は国際通り周辺を企業さんの協力も得てやったというような活動を今やっていることをご存じいただければ幸いかなと思います。

そして、最後の修学旅行のお話です。実は我々は、コンテンツ、コンテンツと、空手の

方がどうおとりになるか少し心配ではあるのですが、観光コンテンツの1つとして空手というのは非常に重要であると考えております。修学旅行もちろんですが、一般の日本国内外のお客様に対しても、私どもは空手会館という立派な施設ができました。要は体験する場所もあって、歴史も展示しているというところがございますので、そこをうまく組み入れた形で、修学旅行、それから一般のお客さんにかかわらず、空手という沖縄発祥の文化をぜひぜひ組み込んで、皆様に御体験いただきたいと考えているところでございます。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

よろしいですか。

せっかくお二人が来られているので、逆に私から質問ですが、今事務局からあった空手ツーリズムという考え方ですが、これまでお話があった空手愛好家の人たちが来られて、そこで交流するということだけではなくて、例えば一般の東京あたりから来る女性のグループに空手のエッセンスを体験型として参加してもらおうような、空手ファンを増やす意味合いの取り組みというのもこれから必要ではないかというのが議論としてあると思うのですが、佐久本委員、ミゲール(・ダルーズ専門)委員から、もともと空手をやっているわけではないのだけれども、沖縄に空手があるということで、何とか体験をしたいという方を増やしていくことに関して、御意見があればお伺いしたいと思いますけども、佐久本委員、次来られないかもしれないということなので、今のうちに聞いておきたいのですが、一般の方々の空手に関する関心を高めるための取り組みについて。

【佐久本専門委員】

特に、今活動はしてないですけど、県外の観光業者のほうから、修学旅行のツアーで一緒にできるかと。実際名古屋のほうからもそういう話が入って来たり、もうシナリオはできているんですけど、それについてどういう対応ができるか考えましょうということ。

喜友名選手の話をしきさせてもらおうと、彼がプレイボーイなど雑誌等にも出ることがあって、マスコミはほとんど毎日のように電話が来ます。この間は朝の番組に出る女性の方が来て、一緒に空手をしてみたり、そうするとやはり報道の拡散していく範囲が全然違っていくというか、そういうのがあります。

松岡修造さんがお出でになって一緒に空手をして、楽しむと思われたら困るので、したたか負荷かけて、ハアハアするまでさせて、どうだと言ったら苦しいですねと言って、こ

ういう練習を毎日やっているんだよ。でも、健康のために楽しいこともあるという話をし、非常によくわかっていらっしやって、そんな形での枠を広げながら、有名なそういう女優さんや俳優さんを使ってやるやり方もあるのかなと思います。

いずれにしても、そういう形を有効活用しながら、喜友名がオリンピック決定するかしないかわかりませんが、そういうあらゆるものを有効活用して、どんどんどんどん枠を広げて宣伝できれば、空手もよくなるし、沖縄の活性化につながるだろうし、また我々が今やろうとしている県のビジョンにも非常にマッチングできるような中身になっていくのかなと思います。そういうことです。

【下地部会長】

ありがとうございます。

ミゲールさんも何かありますか。

【ダローズ専門委員】

私は空手会館に週4回勤務して2年半たっていますけれど、これまで観光客はほとんど来ていないのが現状です。観光団が訪れたのは、私が知っている限り3回ぐらいで、大型観光団で、見るだけではなくて実際体験、ただし先生が言ったように、甘く見られたら困るので、まずは本物の空手を見せた上で、それから皆さんと一緒にやりましょう。本物を見せてそれから体験で、最後は発表会までさせて非常に大ヒットでした。

これを旅行社が1回見に来て、またやりましょうということになったので、これをすることによって発祥の地が頭にインプットされる。そして空手は沖縄の文化。

恐らくこの観光団は空手を二度とやらないと思うけど、1団が160名でした。その中で1人ぐらいは空手を続けるかもしれないけど、160名はみんなインプットしていますよね。自分の国に戻って、沖縄は空手の発祥の地というメッセージを伝えていけるのが重要ではないかなと。

ここにも空手ツーリズムとか商品という言葉がありますが、長老の先生方は空手産業は聞きたくない言葉だけれども、空手関連産業だと問題ないでしょう。なので、空手を商品にするのはだめ。空手関連商品をつくるのは問題ないと。

若者はみんな興味ある。そういう商品にかかわっていきたい。将来自分は道場だけでやっていける。それにプラスいろんな展開にかかわっていけるのが非常に重要だと思うので、これから振興計画の中に盛り込んでいければと思っています。

【佐久本専門委員】

あと1つささやかな意見ですけど、Facebookを見て、この間の200年祭、興奮冷めやらずというか、まだFacebookにどんどん出てきますけど、喜友名たちの世界一の空手と世界一の伝統芸能の踊りとコラボで創作でうまく遊んでみようかなと思って、県立芸大の舞踊をなさっている方とやりました。

これが非常に評価がよくて、温故知新と言いますか、次の集まりで話しますけれども、故きを温ねて新しきを知る、大事なこと、守る空手もあると思う。だけど、進化させていく空手もあると思う。

やはり海外の方のニーズに応えるためには、本物志向で喜友名たちが本当にぎりぎりのところで当てて止めて、3m50から投げ落として、それからぼんとやっていく。

これに魂を入れるということで、県立芸大の踊りの師匠クラスの方が創作で入れてこうやっていく。そこにライトでうまくやる。今度は照明に金をかけました。100万単位のお金をかけて、初めてやってみようということで、ライトもアップして、幻想の世界というのをつかって、より芸術性の高い視点から形を整えてみる。本物の空手も見せる。そういう創作の中で、光と音と照明をうまく有効活用しながらやってみました。

最後はみんなで、アメリカのカーネギーホールでやってみたいと言って笑ったのですが、そういうふうに芸術性の高いものもする。もちろん本物の空手も当然見せないといけないわけで、ただ守るものも大事だけど、進化発展させて今の若い者のニーズに応じていく。空手っておもしろいよねと。健康だけではない。こんなに楽しめるということが共有できたかなと思います。

初めての試みでした。予想外の金がかかりましたけど、お金をかけた分の成果はあったと思っています。だから、見せ方、プロの方々とうまくタイアップしてステージをつくれと、もっともっと沖縄の空手が評価されていく。

原点を忘れずにやっていくということは、今お話があったとおりにおろそかにしないで、原点を守りつつ、そういう形での多岐にわたるような有効活用があるだろうなと思いました。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。次回もぜひまたプラスアルファでお願いをいたします。

すみません。お待たせしました。佐野委員お願いします。

私、昨日、佐野委員はことしからということですけど、前任地がケニアということで、その部分も含めて、沖縄の観光をどう見られているのかというところをぜひお聞かせいた

できればと思います。

【佐野専門委員】

今我々 J I C A もエコツーリズムの研修を、環境が似ている島しょ国、中米カリブとか、アジア・大洋州の研修員に対して行っていて、その中でビレッジステイなどもやっているの、先ほど出ていたように言葉がなくても、沖縄古来のおもてなしの心を、ビレッジステイすることによって経験する。あとはエコツーリズムでどういうふうに環境保全をしていこうとしているのか。もちろん今はオーバーツーリズムの問題も出てきているので、そういうことを沖縄で研修をして自国に戻っていくということでは、沖縄のリソースは非常に大きいと思っております。

そこで3点簡単に。先ほどブランディングのお話があって、コンテンツのお話もありましたが、Be. Okinawa といったときに、今イメージ動画もあるということですが、もちろんいろんなあれもこれもあっていいのですが、Be. Okinawa といったときに、みんなにどう思ってもらって、Be. Okinawa になって帰るといったところが、まだ観光客に伝わっていないのかなど。

掛け声にはなっていますが、その言葉で、観光する人たちにどういうことを体験してほしいのかというところが、イメージ動画を発信しているということですが、なかなか浸透していないのかなという印象を持っています。

ここは、ターゲット国によっても違うと思いますが、どういうことをイメージされて、Be. Okinawa を進められているのかを教えてくださいたいと思っています。

2番目が、先ほど直接アジアの人たちを雇用してしまうというお話がありましたが、前田委員から、この計画は沖縄の人がハッピーになっていくというときに、やはり雇用につながるっていくところも重要で、沖縄の人たちが言葉を覚えるのが大変だからと言って雇用から外れていくと、本末転倒になって、みんなそっぽを向いてしまうかなというのがあるので、そのあたりは事務局としてどんなことをお考えになっているのかをお聞かせいただきたいと思っています。

3点目は先ほど部会長からありましたけど、まさに海外からの修学旅行は本当に異文化体験のいい機会です。日程を調整するだけでなく、受け入れる学校の先生が、ちゃんとそれを異文化理解、国際理解体験にする、海外の学校も沖縄の学校の人たちも、異文化体験がちゃんとできる機会にするためには、先生には、どうすればそれができるかというある程度のスキルが必要です。

JICAは、文化観光スポーツ部と教育庁と一緒に、国際理解教育や開発教育をやってきていますが、そういうところも引き続き推進して、先生を育てて、修学旅行に単に来るだけでなく、来てもらったら、先生と子どもたちにとっていい機会になるように進めていただきたいと思います。

そういうことも、記載がいっぱいなので書き切れなと思いますけれども、先ほどの異文化経験ということは追記してもいいのではと思いました。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。事務局から何か。

【事務局 雉鼻観光振興課長】

観光振興課でございます。まず最初のBe. Okinawaに関してですけれども、これはいろんな訳文はあると思いますが、雰囲気とか食べ物とか文化とか空気を含めて、沖縄になりましょうというようなイメージで考えております。

Be動詞のBeは、そこにあるという存在をあらわすと同時に、行動を促す言葉とされております。Be. Okinawaというのは難しいメッセージではなくて、世界中で呼んでいただけるのではないかなということも考えております。

外国の方には平成27年度一度調査をかけました。かなり浸透してきているという結果が出ておまして、従来、海外向けのブランドとしてやっていましたが、平成27年度から国内向けもBe. Okinawaという形で展開することになっております。

毎年テーマを少しずつ変えて、ことしはことしの動画を既につくっております。10月からホームページにアップして、銀座で皆さんにお知らせするイベントもやろうかということで、かなりBe. Okinawaというのは国内外でも浸透してきたかなと我々は思っております。

次に、雇用につながっていくというところで、例えば人材育成、それから定着についても私どもの事業で考えようとしております。

入って3年以内にやめる。これは観光業界だけではないかもしれませんが、非常に離職率が高い傾向があるようですので、いろいろな同年代の人と話をしてもらうとか、先輩の話を聞いてもらうとか、カウンセリングをするとか、もちろん業界として待遇とかの問題もあると思いますけれども、そういうのを包括してやっていければと今考えているところです。

最後に修学旅行ですが、まさにおっしゃるとおりで異文化体験で、先ほども話に出しておりましたけれども、やはり学校の先生方がきちんと御理解いただいて、タイトなスケジュ

ールの中、両方にとっての異文化体験を進めていただくことは非常に重要と考えております。引き続き、教育庁などと協力しながら、少しでも拡大できるように考えていきたいと思っております。以上です。

【下地部会長】

ありがとうございました。

平田副部会長から一言。

【平田副部会長】

資料8の59ページを開いていただきまして、若干気になったので質問ですが、オレンジの主な予算事業ですけれども、那覇空港の滑走路増設整備のところ国直轄と記載があつて、達成状況は順調となっています。

これは質問です。第2滑走路が完成すると、今とトレンドというか、その標準値が変わると思います。なので、トレンドの変化は意識されていて、その後の記述とか考えになっているのか。恐らく第2滑走路がない前は、先ほど言ったように720万人が空港限界数値と覚えていますけど、明らかに今720万人は既に超えているわけですけど、第2滑走路があれば1,000万人は達成できるというお話が以前あったので、1,000万の人たちが来ることはほぼ確実だと思います。

それをトレンドとして考えた中で、その変化が反映されているのかと調べてみたら、これに関しては国で記載と書いてあったので、沖縄側だけではできない何かもあるのかなと思ひながら、その点が1つです。

2つ目は20ページです。今度は文化と観光の部分ですが、成果指標の3、観光客の文化観光の比率の目標値が30%で、実績値が11.8%ということで、10.8%だった平成24年からあまりかわってないような印象があります。僕自身もここにかかわる一人として大きな反省もあるわけですが、進展遅れということに関して、今後どういう対策、対応をしていくのか、県の考えがあればと思います。

366ページのこの部分を見ても、順調に進んでいるみたいな表記になっているものから、このあたりは確認が必要かなと思ひました。

成果指標4の観光客の娯楽・入場費の消費単価も、目標値の9,000円に対して実績値が6,485円、基準値の7,800円を下回っていることを考えてみても、進展遅れに対してどういう手を講じていくのかというものが必要になってくると感じましたので、このあたりに関する資料10の該当箇所との整合性について、どなたか答えられるのであれば聞いてみたい

と思います。

【下地部会長】

いかがでしょうか。

【平田副部会長】

ばくつとした質問になって本当に申しわけないですが、疑問に思ったので。

何でもいいです。現状で答えられる範囲で。

そうですね。第2滑走路完成後のトレンドの変化は意識されているか。

【事務局 新垣文化観光スポーツ部長】

ここの中でいう意味ですか。

この表現の話ですか

【平田副部会長】

そうです。1つは、20ページに関したところでいうと、表現の話です。観光客の文化観光の比率に関しては進展遅れになってますが、

【事務局 新垣文化観光スポーツ部長】

那覇空港の滑走路の話は、トレンドを資料8の中でどう打ち込んでいるかという御質問ですか。

【平田副部会長】

そうです。国直轄みたいな感じでしか書かれてないので、沖縄だけでは書きづらいのかなと思いつつ、数値とか施策が供用開始から全然変わってくると思いますけど、その辺を意識された文言とかになっていますかという質問です。なっていると言われれば終わりかもしれないですが。

【下地部会長】

個別に回答するのであれば、次回に回してもいいですよ。

【平田副部会長】

次回のMICEのタイミングでも。

【事務局 新垣文化観光スポーツ部長】

確かに国直轄で整備しているので、整備の内容については私どもで触れていないので国直轄事業と書いています。

来年3月に供用開始ということははっきりしていますので、平田委員おっしゃるように、伸びるところを見据えているんな施策の展開が必要になります。ですので、第2滑

走路を見据えた今後の観光施策が非常に大事だという考えで打ち込んでいるつもりですが、今回は総点検ということで、現状を踏まえて課題をメインにやっていますので、すみません、今どの辺にあるかすぐ答えられないので、次回お答えさせていただきたいと思います。

【事務局 雫鼻観光振興課長】

観光振興課です。少し補足させていただきますと、トレンドといいますか、例えば海外からの路線誘致なども進めているところです。

ミゲール(・ダルーズ専門)委員からもありましたように、ヨーロッパとか、先ほど私、バンコク、シンガポールというお話をさせていただきましたが、東南アジアのほかの空港も、当然私も路線誘致を図っているところでございます。

そういう中で、例えば冒頭平田委員がおっしゃったように、数だけではないということも意識して、どの部分をとってトレンドというのか、すみません。よくわからないところもありますが、そのような形で、具体的な枝の話ですが、進めているところでございます。

【下地部会長】

ありがとうございました。

だいぶ時間がなくなってきましたので、何か観光側のメンバーからも。

小島委員、お願いします。

【小島専門委員】

すみません、時間がない中で。一言だけ。

大城委員から白タクの話が先ほど出ましたが、取り締まりだけではなくて、お客さんが望んでいることが、言語ができて運転ができる方です。

ですので、人材育成という意味合いで、人手不足の中ですけど、運転する方自体が足りない中で、語学力もというのは高望みだと思いますが、そういう部分も力を入れて養成していただければ、語学力のあるドライバーは給料も高くなる。そうするとモチベーションのアップにもつながるので、そういった部分での助成もぜひ考えていただいて、養成していただければと思います。白タクを取り締まりだけではなく、そういった部分でもお願いできたらなと思いました。

【下地部会長】

ありがとうございます。このあたりも多分、今の時代、規制強化と規制緩和のバランスの問題だと思いますので、御指摘のとおりだと思います。

私のほうから1点だけ、指摘だけにしますが、資料8の42ページ、産業間連携の強化というところで、観光客一人当たりの土産品購入費と宿泊業における県産品利用状況というところが進展遅れという指摘がされています。

観光の大きな課題に観光消費額を伸ばすことがある中で、滞在日数を大きく伸ばすのは現実的にはなかなか難しい中で、まだこの部分で少しずつ改善できる見込みはあるのではないかと考えています。

まさにきょうの午前中ですけれども、物産公社、畜産公社、文化振興会等々に入ってもらって、各外郭団体側から消費額を、特に土産、飲食、文化をどうやったら伸ばせるかという横の連携の会議をスタートしました。

県の中でも、今文化観光スポーツ部と農林水産部と商工部で横断的な意見交換をされていると聞いておりますので、現場サイドでも消費額を高めるための努力が必要だと思っています。

これまでは物産公社とか、農林水産業との部分は結構されてきたと思いますけど、きょうは文化振興会に入ってもらって、文化をどう消費額に高めていくのかという議論も結構進みました。空手もその分野に入るとは思いますけれども、進展遅れとなっている消費額をいかにこれから上向きにできるかというところは工夫が必要ではないかと思いましたが、これはコメントだけにしておきたいと思います。

當山さん、何か言いたそうな顔をしていますけど、大丈夫ですか。

【當山専門委員】

1つだけ、今部会長が言ったところの観光土産、観光製造業という観点もものすごく重要で、単価だけではなくて、やはり沖縄はギフトです。メイドイン沖縄ですかという意味で言ったら、実は土産の約7割は本土産です。沖縄の土産屋さんの多くが仕入れ屋さんです。

という意味でいくと、県のGDP、県民所得も含めて上げていくためには、沖縄でつくって、大きな販路が目の前にあるわけですから、自分たちでつくって自分たちで販路を拡大していくという部分も強調していただければ大変うれしいなというところです。

【下地部会長】

まさに消費額を高めるために、原材料の域内調達率をどうやって上げるかという議論も大事だと思います。きょう午前中の内部の会議でもそこは議論になったところです。ありがとうございました。

それでは、すみません。予定していた時間を少し過ぎてしまいましたけれども、次回が M I C E と空手になっております。次回等に向けての事務局からの報告があればお願いしたいと思っておりますけど、よろしく申し上げます。

2. 事務連絡(今後の日程等)

【事務局 仲里班長(観光政策課)】

下地部会長、どうもありがとうございました。

また、委員の皆様におかれましては、長時間の審議まことにありがとうございました。

本日いただきました御意見を踏まえまして、第4回文化観光スポーツ部会において、まだ回答できなかった部分あるいは確認する部分に関しまして、改めて御回答をしたいと考えております。

なお、第4回の文化観光スポーツ部会につきましては、令和元年10月29日・火曜日の午後で予定をさせていただいておりますので、正式な通知は後日お知らせいたしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、以上をもちまして、本日の沖縄県振興審議会第3回文化観光スポーツ部会を終了させていただきます。

委員の皆様、本日はお忙しい中御出席いただきまして、まことにありがとうございました。

【佐野専門委員】

すみません。あと1点。

意見書を送った後、受領したという御連絡をいただけますか。もし送れてないといけな
いと思うので、すみません。確認の1行だけでいいので。

【事務局 仲里班長(観光政策課)】

承知しました。そのようにいたしたいと思ひます。ありがとうございます。

3. 閉 会